

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190300059		
法人名	社会福祉法人 喜望会		
事業所名	グループホーム みのがみの杜 (Aユニット)		
所在地	岐阜県美濃市上野2-1		
自己評価作成日	令和 6年 3月 8日	評価結果市町村受理日	令和 7年 3月 11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生きて来られた背景を見てその人の願いや気持ちを汲み取り、できるだけかなえられるようにしています。季節の行事(お正月 節分 ひな祭り お花見 紫陽花見学 七夕 夏祭り花火見学 お彼岸 運動会 紅葉見学 クリスマス、誕生会お祝いなど)できる限り想い出づくりをしています。コロナ感染症以前は、週末ごとにご自宅に帰られたりお盆、お正月に外泊され、ご家族と過ごされたり。ご家族にもできるだけ訪問しやすい環境作りや面会時間(現在は制限がありますが)等ご家族との繋がりを大切にしています。コロナ感染症以前は隣接する保育園との行事で園児達との交流場を定期的に設けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=2190300059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=2190300059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 6年 3月 26日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは緑に囲まれた自然豊かな場所に立地し、居室や共有スペース、廊下には量が敷き詰められ、障子や和紙を活用した調度品や暖炉があり、和の雰囲気を感じられる。今年度もコロナ禍の影響下であり、感染症予防のため、外部との直接の交流はできる限り控えているが、隣接の保育園とは玄関先での行事の披露や夏祭り花火の駐車場での鑑賞等、間接的な交流を継続している。ホームでは、理念に基づき、利用者の笑顔溢れる生活の支援に努めるとともに、エンパワメント向上の観点から、利用者の意思を尊重したケアに取り組んでいる。また、入居後も利用者のかかりつけ医の継続ができるよう、かかりつけ医を把握し、それぞれに応じた受診支援を行っている。医療連携については、訪問看護との契約により24時間オンコール体制ができており、看取りについても、希望に応じた対応がなされている。さらに、避難訓練に関しては、地域のハザードマップにより、リスクを把握し、垂直避難を想定した訓練を実施する等して、災害時に備えている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を復唱し職員間で共有し、日々利用者への対応の実践ができるようになっていく。職員間で意見を交わしている。	理念は玄関や事務所内に掲示されており、毎朝復唱したり、職員研修等の機会や個人面談の際に話題にする等して、職員間で意識づけに努めている。理念をベースにして、今年度は行事等の充実を図ることを目標に職員間で分担し、企画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に隣接している保育園と交流し七夕会、夏祭り、クリスマス会など行事には行ったり来たりして楽しんでいる。又自治会の方がホームに訪問され伝統行事を見せて下さる。コロナ禍の為にできていない。	隣接している保育園とは、コロナ感染予防のため、直接の交流は避けつつ、七夕の行事や夏祭りの花火鑑賞等を通じて、交流を図っている。コロナ禍以前は、紙芝居やダンス等のボランティアの受け入れをしていたので、状況が好転すれば、再開する予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事の報告を写真にて確認できるようにしている。また、利用者の健康状態についても報告し理解を得たり、意見をきいたりして改善につなげている	運営推進会議は、コロナ禍により開催を見合わせ、地域包括支援センターや自治会長、民生委員等の地域役員には書面報告として資料を配布している。	コロナ感染症も5類に移行しているため、対面での開催を前向きに検討している。今後とも、多くの関係者に興味を持ってもらえるよう、2か月に1回の開催を目標にし、会議開催に向けた取り組みに期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では行事の報告を写真にて確認できるようにしている。また、利用者の健康状態についても報告し理解を得たり、意見をきいたりして改善につなげている	認定調査の日程調整や地域連絡会議等にホームのケアマネージャーが出席し、行政関係者と連携する機会がある。地域包括支援センターとは運営推進会議の資料配布や入居希望者の紹介等を通じて連携関係ができている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人の持てる力を職員の介助によってできるように支援している。ホーム内でも自由に行動できるようにしている。施設な研修を定期的に行っている。	身体拘束防止に関する指針があり、現在、該当事例はない。また、委員会があり、全体会議において2か月に1回、研修が開催されている。研修後には振り返りシートを活用し、自身を振り返り、身体拘束をしないケアについての意識を高めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束と虐待の関係など、どんな行為が虐待につながるのかを、職員間で定期的に研修勉強会をし共有している。利用者の呼び方にも注意している。	虐待について、2か月に1回、身体拘束防止や接遇向上と合わせて研修を実施している。スピーチロックについても虐待や身体拘束ととらえ、職員間で注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修をうけており、理事長も専門家の立場で日常時に相談できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時申込書を頂きその場で概要の説明を行っている。入居契約時には細部にわたり納得のいくまで説明をし承諾をはかるようにしている。また、ケアプランにご家族の意見も反映できるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームにはご意見箱を設置している。また、家族が来られた時には困りごとが無いかが気軽に相談できるようにしている。頂いた意見等はその場で職員に伝わるようにしている。	できる限り、家族等に来訪してもらえるよう促す等している。また、面会時に近況を伝え、意見を伺うようにしている。なかには、電話の応対や荷物管理等についての提案があり、改善を図っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の少なくとも年一度の面談の機会を設けて意見を聞くようにしている。又、全体会議を2ヶ月に1度開催、また、各委員会を設け皆の意見をまとめ業務の改善にかかしている。	年に1回、代表者と面談を行っている。3つの委員会等で出た意見や検討課題、報告等について、全体会議で話題にしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や向上心を察知し、資格取得のためのアドバイスや便宜、経済的支援、各種の研修会への参加、知識や技術の向上のための環境づくりを整備している。	職員の様々な要望、事情に合わせ、夜勤のみや遅番のみ等の様々なシフトを整備している。有休についても希望に応じて対応する等、職員のワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに努めている。急な事情での早退や休みについても職員間で協力し、対応している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質向上研修や資格取得しやすい環境の整備し職員の知識・技術の向上に努めている。特に最新の知識技術の導入に心がけている。又、認知症の研修にも、参加して職員に伝達している。	2か月に1回の全体会議では、併せて研修を行い、研鑽の機会としている。オンラインの研修参加やSNSでの介護技術や知識の情報収集についても活用促進している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク美濃、医療介護連携勉強会等に出席し交流を深めている。また、施設内で行う研修に誘ったりして参加を促している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の今迄の暮らしを尊重し、地域社会の馴染みの関係を維持することや家族への橋渡しをしたりしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の生活パターンを大事にしている。コロナ感染症がもう少し落ち着けば今迄利用していたスーパーや喫茶店などへのお出かけを再開したい。行事の際、利用者様の喜望でノンアルコールではあるがビール日本酒ワイン等を提供している。	希望に応じ、日中も部屋で休んでもらう時間を設けたり、希望に応じて飲酒気分を味わってもらえるよう、ノンアルコールビールを提供する等して本人の希望を尊重している。表情や行動の様子から、声かけ確認をする等して、気持ちを汲み取るようにしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については担当の職員・主任・ケアマネージャー・本人・ご家族と担当者会議を開き検討し介護計画作成している。	介護計画は3か月に1回を目安に見直しを行っている。ADLの変化等を機に、朝礼や夜勤者への申し送りで対応の変更が生じる場合には計画も更新している。変更点は申し送り、変更後のプランは職員間で情報共有を図っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフト入力とは別に申し送りをノートに記載し全職員に伝達し、その日の介護に活かしている。また、利用者ごとの特記事項が職員間で共有できるようにノートに記載している。	特記事項は申し送りノートに詳しく記載するようにしている。ケアマネージャーが記載する支援経過記録も踏まえて、プランへの反映や実践につながるよう工夫している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で理容が行えるようにしている。コロナ禍の為外出は控えているが車で外部との接触を極力避け車でお花見等は行っている。病院受診にも家族の都合が悪ければ職員が付添い行っている。毎週木曜日は全体訪看の日とし訪看と連携し健康管理を行っている。	理美容については、コロナ禍対応で、月に2回、来訪してもらっている。外部の専門医の受診において、家族の都合が悪い場合には、ホームで同行支援を行ったりしている。さらに、毎週、訪問看護師による体調確認がある等、医療連携ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを募りホーム周辺の草刈りなどを依頼している。レクレーションは隣の保育園と共同で行い楽しんでもらえるように支援している。コロナ禍のため出来ない。隣接する保育園主催の花火大会を中庭から楽しんでいる。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた主治医にお願いし、これまでの状況を今後の治療が続けられるようにしている。その他に認知症専門医にも受診して適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を入居後も継続することができ、また、月2回の訪問診療を受けられることで安心した生活ができている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時情報を提供し、日常的にも美濃病院等の相談員と連絡をとり連携している。	入院時、既往歴や薬の内容等、必要な情報を提供している。退院時も必要に応じてカンファレンスに出席し、状態の把握に努める等して、退院後、ホームで安心して生活ができるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書に記入してもらっている。重度化した場合には医師、家族、事業所とともに話し合い看取りなどの方針を決めている。グループホーム内で看取りの希望がある場合には、看取りについての同意書を作成し、家族に記入してもらっている。	終末期のあり方について入居時に意向を確認している。喀痰吸引が伴う場合のケアは難しいが、重度化した場合、ホームで看取りを希望される利用者が多く、毎年複数件、看取りを行っている。主治医の説明時には、職員も同席する等して、利用者、家族の希望に沿った支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応ができるように、マニュアルを作成している。また普段の生活の中でも緊急対応の訓練を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練日を311と911に定め災害時の避難訓練を定期的に行っている。消防署や地域の自治会長とも連携し協力を依頼している。垂直避難に備えて介助シートを購入した。2階には数日分の備蓄品を用意している。	地域のハザードマップを把握し、危機を想定している。年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、垂直避難の訓練を行っている。2階の安全な場所に食糧等も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前にアセスメントし利用者の願いややりたいことが出来るようにしている。居室には外から室内をうかがえる窓があり、職員が入室することなくプライバシーが守れるようにしている。	利用者の個々の特性に配慮し、可能な限り同性で介助にあたる等の工夫をしている。居室には足元灯を用い、転倒防止や出入口小窓からの安否確認に活かすとともに、安眠やプライバシーに配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時なじみのところへ行けるように配慮し好きなものを食べたりできるように支援を再開したい。今までの生活歴でできていたことの延長でホームでできる事はかなえられるようにしたい。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の生活をその人の希望に沿って支援できるようにしている。買い物の要望などに対応し、コロナ禍の為外出はできていない。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを知り、楽しく食事ができるように配慮している。季節に合った行事食を作って喜んでもらっている。また、配膳等手伝ってもらっている。	季節行事に合わせ、ちらし寿司にしたり、お彼岸には、ぼた餅を一緒に作ったりする等して食を楽しんでもらっている。リクエストがあれば、できる限りメニューに反映させている。利用者の状況に応じて、食後の下膳を手伝ってもらっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯の無い人や嚥下の悪い人などその人に合った食事形態を変えて出している。また飲み物に関してもとろみをつけて、誤嚥しないようにしている。市販のレトルト介護食も必要に応じて対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。また、歯科医とも連携し口腔内の不具合をチェックしできるだけ自分の歯で食べれるようにしている。	定期的に歯科医の診療や歯科衛生士の歯磨き指導がある。食後は介助しながら、口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努め、誤嚥性肺炎の防止につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレには分かりやすく表示がしてあり、利用者も慣れてくると自分で行くことができるようになる。又、むやみにオムツに頼らないように、本人の排泄パターンを知り常に対応している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しても、その方の今迄の習慣を崩さないようにしている。曜日や時間帯の希望をお聞きすることは現実的に難しいが入浴時にはリラックスできるような会話を心がけている。入浴剤も使用しているが人によっては肌荒れも心配。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋は自分の思うように過ごしてしてもらう環境を整えている。部屋はベッドでも畳でも家にいた時のようにしてもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬の情報が分かるようにしている。また個人の薬をセットして職員間にチェック体制を徹底し間違いのないようにしている。	薬は調剤薬局により、一包化され、記名を印字し、誤配薬の防止につながっている。また、錠剤が飲めない方の場合には粉末に変更している。複数人の目で確認し、誤薬を防止する等して、服薬支援を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴をアセスメントして、役割が持てるようにしている。それによって張り合いのある生活ができ、徘徊や帰宅願望も減少している。毎月の誕生会や季節の行事をほぼ毎月行っている。	利用者の個性や状況に合わせて、洗濯物たたみ等の家事役割をお願いする等、家で行っていた役割を継続できるよう支援している。コーヒータイム後にカップを洗っている利用者に職員が感謝の声かけしている光景が見て取れた。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆で一緒に出掛けることは利用者にとっても楽しみなので出来るだけ仲の良い人と一緒に外出している。コロナ禍の為にできていない。また、ご家族との外出など逆デイサービスの実施、受診の付添も含めて実施するようにしている。	コロナ禍のため、機会は限られているが千本桜や紫陽花、紅葉等の観賞ためにドライブ外出し、季節感を感じてもらっている。陽気が良い日には、敷地内の散歩も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族で「少しぐらいなら持たせたい」という意向があり少額を所持している人もある。但し、職員も把握していて、外出時使われた様子を家族に伝えるようにしている。ご本人保管時に他の利用者様にあげてしまわれたり財布を保管した場所がわからなくなる等注意が必要である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日夕方家族に電話をかけたいと言う利用者には職員がダイヤルをし家族と話してもらっている。ラインによるビデオ通話を開始した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって温度管理、湿度管理をしている。また、利用者が好みに応じて居心地の良い空間を作っている。(ベランダ・ソファ・暖炉)など玄関スペースに人工芝を敷き詰め安全を確保しテーブル2脚椅子6脚設置し寛げるスペースを提供。暖かい季節にはテラスで過ごす時間を作っていく。	屋内は、室温や湿度に配慮し、楽しく集まれる場所を提供している。壁には利用者の作品が飾っており、ゆったりと過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは話ができる人同士を同じ席にしている。また、一緒にソファに座って話が出来たり、カラオケを楽しんだりすることができるようにしている。居室以外にも共有スペース、廊下に椅子を設置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切にされているもの、馴染の物を持ってきていただくようにしている。寝具も今迄使っていたもので休んでもらうようにしている。(ベット・畳)など、これまでの生活習慣を大事にしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の下駄箱・テーブルには名前が書いてあり、混乱の無いようにしている。外へ出るときやトイレに行くときに安全に行動できるように手すりも設置している。廊下の手すり洗面台柱を緩衝材で保護している。玄関共有スペースはタイル張りであったが人工芝を敷き転倒時の衝撃を緩和。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190300059		
法人名	社会福祉法人 喜望会		
事業所名	グループホーム みのがみの杜 (Bユニット)		
所在地	岐阜県美濃市上野2-1		
自己評価作成日	令和 6年 3月 8日	評価結果市町村受理日	令和 7年 3月 11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生きて来られた背景を見てその人の願いや気持ちを汲み取り、できるだけかなえられるようにしています。季節の行事(お正月 節分 ひな祭り お花見 紫陽花見学 七夕 夏祭り花火見学 お彼岸 運動会 紅葉見学 クリスマス、誕生会お祝いなど)できる限り想い出づくりをしています。コロナ感染症以前は、週末ごとにご自宅に帰られたりお盆、お正月に外泊され、ご家族と過ごされたり。ご家族にもできるだけ訪問しやすい環境作りや面会時間(現在は制限がありますが)等ご家族との繋がりを大切にしています。コロナ感染症以前は隣接する保育園との行事で園児達との交流場を定期的に設けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvsvoCd=2190300059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvsvoCd=2190300059-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 6年 3月 26日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を復唱し職員間で共有し、日々利用者への対応の実践ができるようになってきている。職員間で意見を交わしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に隣接している保育園と交流し七夕会、夏祭り、クリスマス会など行事には行ったり来たりして楽しんでいる。又自治会の方がホームに訪問され伝統行事を見せて下さる。コロナ禍の為にできていない。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事の報告を写真にて確認できるようにしている。また、利用者の健康状態についても報告し理解を得たり、意見をきいたりして改善につなげている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では行事の報告を写真にて確認できるようにしている。また、利用者の健康状態についても報告し理解を得たり、意見をきいたりして改善につなげている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人の持てる力を職員の介助によってできるように支援している。ホーム内でも自由に行動できるようにしている。施設な研修を定期的に行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束と虐待の関係など、どんな行為が虐待につながるのかを、職員間で定期的に研修勉強会をし共有している。利用者の呼び方にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修をうけており、理事長も専門家の立場で日常時に相談できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時申込書を頂きその場で概要の説明を行っている。入居契約時には細部にわたり納得のいくまで説明をし承諾をはかるようにしている。また、ケアプランにご家族の意見も反映できるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームにはご意見箱を設置している。また、家族が来られた時には困りごとが無いかが気軽に相談できるようにしている。頂いた意見等はその場で職員に伝わるようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の少なくとも年一度の面談の機会を設けて意見を聞くようにしている。又、全体会議を2ヶ月に1度開催、また、各委員会を設け皆の意見をまとめ業務の改善にかしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や向上心を察知し、資格取得のためのアドバイスや便宜、経済的支援、各種の研修会への参加、知識や技術の向上のための環境づくりを整備している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質向上研修や資格取得しやすい環境の整備し職員の知識・技術の向上に努めている。特に最新の知識技術の導入に心がけている。又、認知症の研修にも、参加して職員に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク美濃、医療介護連携勉強会等に出席し交流を深めている。また、施設内で行う研修に誘ったりして参加を促している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の今迄の暮らしを尊重し、地域社会の馴染みの関係を維持することや家族への橋渡しをしたりしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の生活パターンを大事にしている。コロナ感染症がもう少し落ち着けば今迄利用していたスーパーや喫茶店などへのお出かけを再開したい。行事の際、利用者様の希望でノンアルコールではあるがビール日本酒ワイン等を提供している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については担当の職員・主任・ケアマネージャー・本人・ご家族と担当者会議を開き検討し介護計画作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフト入力とは別に申し送りをノートに記載し全職員に伝達し、その日の介護に活かしている。また、利用者ごとの特記事項が職員間で共有できるようにノートに記載している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で理容が行えるようにしている。コロナ禍の為外出は控えているが車で外部との接触を極力避け車でお花見等は行っている。病院受診にも家族の都合が悪ければ職員が付添い行っている。毎週木曜日は全体訪看の日とし訪看と連携し健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを募りホーム周辺の草刈りなどを依頼している。レクリエーションは隣の保育園と共同で行い楽しんでもらえるように支援している。コロナ禍のため出来ていない。隣接する保育園主催の花火大会を中庭から楽しんでいる。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた主治医にお願いし、これまでの状況を今後の治療が続けられるようにしている。その他に認知症専門医にも受診して適切な医療を受けられるように支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時情報を提供し、日常的にも美濃病院等の相談員と連絡をとり連携している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書に記入してもらっている。重度化した場合には医師、家族、事業所とともに話し合い看取りなどの方針を決めている。グループホーム内で看取りの希望がある場合には、看取りについての同意書を作成し、家族に記入してもらっている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応ができるように、マニュアルを作成している。また普段の生活の中でも緊急対応の訓練を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練日を311と911に定め災害時の避難訓練を定期的に行っている。消防署や地域の自治会長とも連携し協力を依頼している。垂直避難に備えて介助シートを購入した。2階には数日分の備蓄品を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前にアセスメントし利用者の願いややりたいことが出来るようにしている。居室には外から室内をうかがえる窓があり、職員が入室することなくプライバシーが守れるようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時なじみのところへ行けるように配慮し好きなものを食べたりできるように支援を再開したい。今までの生活歴でされていたことの延長でホームでできる事はかなえられるようにしたい。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の生活をその人の希望に沿って支援できるようにしている。買い物の要望などに対応し、コロナ禍の為外出はできていない。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを知り、楽しく食事ができるように配慮している。季節に合った行事食を作って喜んでもらっている。また、配膳等手伝ってもらっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯の無い人や嚥下の悪い人などその人に合った食事形態を変えて出している。また飲み物に関してもとろみをつけて、誤嚥しないようにしている。市販のレトルト介護食も必要に応じて対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。また、歯科医とも連携し口腔内の不具合をチェックしできるだけ自分の歯で食べれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレには分かりやすく表示がしてあり、利用者が慣れてくると自分で行くことができるようになる。又、むやみにオムツに頼らないように、本人の排泄パターンを知り常に対応している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しても、その方の今迄の習慣を崩さないようにしている。曜日や時間帯の希望をお聞きすることは現実的に難しいが入浴時にはリラックスできるような会話を心がけている。入浴剤も使用しているが人によっては肌荒れも心配。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋は自分の思うように過ごしてもらおう環境を整えている。部屋はベットでも畳でも家にいた時のようにしてもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬の情報が分かるようにしている。また個人の薬をセットして職員間にチェック体制を徹底し間違いのないようにしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴をアセスメントして、役割が持てるようにしている。それによって張りのある生活ができ、徘徊や帰宅願望も減少している。毎月の誕生会や季節の行事をほぼ毎月行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	皆と一緒に外掛けることは利用者にとっても楽しみなので出来るだけ仲の良い人と一緒に外出している。コロナ禍の為できていない。また、ご家族との外出など逆デイサービスの実施、受診の付添も含めて実施するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族で「少しぐらいなら持たせたい」という意向があり少額を所持している人もある。但し、職員も把握していて、外出時使われた様子を家族に伝えるようにしている。ご本人保管時に他の利用者様にあげてしまわれたり財布を保管した場所がわからなくなる等注意が必要である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日夕方家族に電話をかけたいと言う利用者には職員がダイヤルをし家族と話してもらっている。ラインによるビデオ通話を開始した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって温度管理、湿度管理をしている。また、利用者が好みに応じて居心地の良い空間を作っている。(ベランダ・ソファ・暖炉)など玄関スペースに人工芝を敷き詰め安全を確保しテーブル2脚椅子6脚設置し寛げるスペースを提供。暖かい季節にはテラスで過ごす時間を作っていく。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは話ができる人同士を同じ席にしている。また、一緒にソファに座って話が出来たり、カラオケを楽しんだりすることができるようにしている。居室以外にも共有スペース、廊下に椅子を設置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切にされているもの、馴染の物を持ってきていただくようにしている。寝具も今迄使っていたもので休んでもらうようにしている。(ベット・畳)など、これまでの生活習慣を大事にしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の下駄箱・テーブルには名前が書いてあり、混乱の無いようにしている。外へ出るときやトイレに行くときに安全に行動できるように手すりも設置している。廊下の手すり洗面台柱を緩衝材で保護している。玄関共有スペースはタイル張りであったが人工芝を敷き転倒時の衝撃を緩和。		